

平成24年1月分

とんが水

新年おけましてお目出とうございます。今年も中小企業にとって厳しい年になることは間違いないことですが、このような経済状況の中でも確実に業績を伸ばしている会社もあります。一倉定先生の言葉で私の一番好きな言葉は、「郵便ポストが赤いのも、電信柱が高いのもみんな社長のせい」「会社はよい会社と悪い会社があるのではなく、よい社長と悪い社長がいるだけだ」。会社の業績のよい悪いは社長の経営力によるものですが、私の会計事務所経営29年の経験から思うのは、業績のよい会社、長く続ける会社(30年以上)の社長は、バランスがとれていない。特定の部分が突出しているという事です。まず学歴が高く、高校卒業が多、大学を出ていても世にいう一流大学は出ていない。二流、三流大学で4年で卒業している社長や自称中学根の社長もいます。ましてやMBAなど取得していない。容姿はカッコいいとは言い難い、長身で着こなすがいいという人はめったにいない。どちどちと云うと背が低かったり、太っていたり、あまりカッコよくない。家庭を大事にしているかという点あまり家庭を大事にしている。奥様の評価はすこぶる低い。奥様には頭があがらないか、けして奥様に口ごたえはない。よって夫婦げんかはないので傍から見ると夫婦仲がよいように見える。仕事中心なので子供の教育まで手が回らず奥様まかせなので子供が優秀でしかりしているとは限らない。社員のほうが教育熱心である。ではよい社長は、どこが特徴かという点、特定の部分が常人より数倍尖っています。まず商売の勘がとてつもない。嗅覚がするどい。これからはこんな時代がくる。こんな商品がはやる商品・サービスを時代の変化に合わせて変えている。いわゆる戦略立案能力に優れている。そして、人一倍仕事熱心で労働時間が長い。そのためにお客様が大好き。よいお客様に恵まれている。その他にその社長に技術力がある。人を教育したり指導する才がたけていた。営業力がとてつない等突出しています。そのために周りからは変人扱いされている社長もいます。私は会社でも同じではないかと思っています。一流大学出の社員の多い会社の業績がよいかという点もありません。会計事務所業界でいうと、税理士とか会計士という資格者の比率の高い会社が伸びているのではなく、人柄のよい社員の多いところが伸びています。これは全ての業界であてはまります。社員には「学生時代は90点としかほめられなかったけど、仕事では、90点ではダメだ、100点以外は落第、カンニングしてでも満点を取らなければいけない」と言い聞かせています。学生時代の成績で通信簿で4とか5の多い人より、1、2、3が多くて1つか2つ、4、5がある人のほうが中小企業に向いている気がします。他は並以下だ、これだけは会社で一番だというのを持つこと、自分の得意分野を持つ、特定の分野でとてつない技がなければNO1なので人が頼りにされ、会社からも必要とされる。要する人はいくつになっても働けて、楽しい人生を送れる。とにかく何でもおれ、トコトコ、尖った集団が変化の時代を生きぬける社員一人一人が何で尖るか自分で探せ。と云うのと定年後に働く場はなくなくなる言っています。会社社員とその家族を守るために、個人は家族と会社のために常に成長していかなければなりません。私は今年の9月で60歳になります。丸くありません。尖った人生、挑戦し続ける人生でいきます。社員、お客様、古田士会計にかかわる全ての人達にお役に立てるおに努力します。今年とどうぞよろしくお願ひ致します。

古田士 浩